

No.131
2000.
10.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

振替名古屋637909

二十一世紀の日本列島まんなか中部圏

岐阜県博物館協会理事長 松本五三



平成11年12月20日、国会等移転審議会答申により、国会の移転先候補地として岐阜県の東濃を中心として愛知県の西三河地方を含む東海地域および栃木、福島等の北東地域が答申された。その他、三

重畿央地域が将来移転先候補地となる可能性があるとも答申されている。理由は幾つか上げられるが、先ず日本列島の中心であって広かつ安全で豊かな交通利便に叶うとの立場で選択されたと考えられる。

戦国時代、美濃を制するものは天下を制すると、時の武将は戦った。信長、秀吉、家康、当時の三傑が中部圏、尾張三河に生まれ育った。当時の室町幕府では、主要政務機関の武家政権は足利氏によって京都にて行われていた。後、信長は美濃を制して岐阜城を本拠にし安土城を築いたが、本心は都は京都に近い方がよいと考えていた。証知が1533年(天文2)本願寺、本坊を城として構えた。信長は石山本願寺に目をつけ、将来自分の本拠にしようと譲渡を申し込んだが、本願寺側はこれを承知せず、両者争うこと約十年、朝廷の仲裁でようやく信長は本願寺の城を譲り受けた。それを池田信輝に守らせ、四国平定の基地にしたが、信長は本能寺にて光秀に滅ぼされた。信長の死後、1583年(天正11)そこを秀吉が本拠地にしたが、1614年(慶長19)大阪冬の陣とその後の大阪夏の陣にて豊臣家は滅亡した。信長、秀吉は京都近畿を中心にした全国統一を計ったが成し遂げられなかった。

家康は武蔵国豊島郡江戸(東京都千代田区)千代田城ともいう、平安末期からそれぞれ

の武将が江戸城を築いてから上杉、北条、徳川の諸代が順次城主となり、徳川家康が武家勢力確立をして、1590年(天正18)幕府として全国統一を成し遂げた。江戸城は1457~1868年の411年間にたびたび増築がなされて当初より約40倍までに大増築されるに至った。徳川15代の居城は1868年(慶長3)に日本の首都となり、徳川幕府の265年間および明治以後現在までの135年間、実に約400年の間、東京で政治、経済を始めあらゆる面が集中肥大化を続けてきたのである。

戦国時代の武将は築城の原理に天文学と地理学を合わせた陰陽学を用いていた。武将が地形を選ぶ基準の参考とした武教全書には、北高く南に低く東西に豊かな耕地があり、湖や海を臨み東から豊かな清い川が流れ、東西南北より豊かな物資を得る利便の地形を「四神相応」の地とし、人間が幸福に生活する地形の条件と規定していた。

日本の国土の約90%である森を利用した首都は素晴らしい。広く自然が豊かかつ安全で交通利便の地、日本列島の中心など、国会等移転先候補地として答申された東海地域、岐阜県東濃を中心とし愛知県西三河地方を含む候補地は地理学、陰陽学「四神相応」等に該当し最も条件に叶っていると思われる。

中濃地区に100ヘクタールの森の公園、森や川などの自然を託した広大な日本最大の博物館を整備する等、自然環境と人類の共存を先進科学、人間の英知と技術で達成できることを確信し、文化はその時代の人類が平和であって成し遂げる課題であることの認識に立ち、二十一世紀に向かって日本が発展していくには中部圏全体がその拠点として絶好と捉え、この機会に期待を致すものである。

平成12年度 東海地区博物館連絡協議会

「日本博物館協会東海支部総会に出席して」

日時：平成12年7月11日(火)～12日(水)

会場：横浜市 横浜美術館

参加：92名

本総会は、東海地区の博物館の連携を図り、博物館事業の振興に努め、学術・文化の発展と相互の交流と研修を目的に、神奈川、静岡、山梨、愛知及び岐阜県で組織しており、本年は神奈川県横浜市で開催されました。今年の参加者は92名で岐阜県からは13名が参加しました。

協議会長の馬場昭男神奈川県歴史博物館長の挨拶で始まり、来賓の祝辞として五十嵐耕一日本博物館協会専務理事より「学校五日制に伴う総合学習と博物館とのありかたについて」と、「社会情勢が厳しい時の博物館の進む道について」の話がありました。

続いて、神奈川県教育委員会の長嶋生涯文化建設課長のご挨拶があり、開催地横浜市を代表して伊藤教育委員会文化財課長から「横浜の歴史を紹介しつつ活用を図り残していきたい」等のお話で開催地として歓迎のご挨拶がありました。さらに、会場になった横浜美術館の館長、陰里鐵郎氏が「時代の変革にどのように対応していったらよいか、望ましい博物館像について」のお話がありました。

(表彰式)

今年度は3名の方が表彰されました。

●前山梨県立美術館長 濱田隆氏

氏は昭和28年奈良国立文化財研究所に勤務の後、東京国立博物館次長、奈良国立博物館長、東京国立文化財研究所長を務められ、その後、山梨県美術館長に就任され、卓越した識見と手腕により芸術文化の振興に多大の貢献を残されました。

●(株)江ノ島水族館長 堀由紀子氏

昭和49年江ノ島水族館の役員に就任し、以来25年社長、館長として市民に親しまれる水族館に作り上げ、県の湘南海岸整備計画とタイアップした館のリフレッシュを検討中でその中心的な役割を担っておられ活躍されています。



●岐阜県美術館長 平光明彦氏

氏は昭和47年に岐阜県博物館準備室勤務になり岐阜県博物館の開館にご尽力をされた後、引き続き岐阜県美術館準備室に勤務され美術館が開館した後も岐阜県美術館の運営一筋に携さわり、20余年の長きに渡り、岐阜県美術館を国内はもとより海外からも注目を集めるまでに育て上げた功績は大でありました。

(講演会)



美術評論家宮野力哉氏による「絵とき 開港と横浜」と題して時々の古地図で進化を比較しながら横浜の発展と風景の変化について解説されました。

会議終了後、次期開催県が紹介され、平成13年度は岐阜県が当番県になりました。その後開催日、場所等を検討した結果、平成13年6月7日(木)～8日(金)に高山市において行うよう準備をしています。会員各位のご協力をお願いします。

(岐阜県博物館 古川司朗)

第47回岐阜県博物館協会会員研修会報告

「地域に密着した博物館活動のあり方」

期日：平成12年9月7日(木)～8日(金)

場所：大垣市スイトピアセンター

講師：清水 進氏 / 原田義久氏

参加：24名

今回の研修は「地域に密着した博物館活動のあり方」というテーマで、以下の日程で開催されました。研修日程は以下のとおりです。

第1日目 9月7日(木) 13:30～17:00

講演：「関ヶ原の戦いと大垣城」

講師 県史専門調査員 清水 進氏
事例発表「タリイピアセンター事業と活動」

講師 タリイピアセンター学芸員

原田義久氏

見学研修

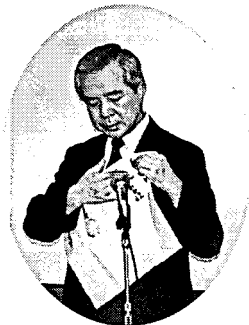
決戦関ヶ原大垣博覧会会場、郷土館の見学

第2日目 9月8日(金)

●見学研修

タリイピアセンターの見学

金生山化石館の見学



清水 進氏



原田義久氏

今年が慶長5年(1600)の関ヶ原合戦より400年という節目にあたることから、「決戦関ヶ原大垣博」の特別展が開催されました。特別展図録を執筆された、清水進氏からお話を聞きました。

大垣の地は決戦前夜までおよそ3週間にわたり、東西両軍が攻防戦を繰り広げた舞台となりました。この両軍の攻防戦について、古文書などから判明し知られていないような内容もおこみながら、わかりやすく解説していただきました。

次に、タリイピアセンターの学芸員田中義久氏より事例発表をしていただきました。「楽しみ上手な文化人」をモットーにしたセンター

の概要、最近行った企画展「宿場と街道」、「守ろう垂井の自然」、「関ヶ原合戦展」についての紹介をしていただきました。あわせて、企画展開催中の関連行事「みんなで垂井宿跡を発見してみませんか」、「南宮山ワイワイトークー毛利はなぜ動かなかったか？」など地域の人々が参加できるユニークな行事をスライドなども交えながら説明されました。

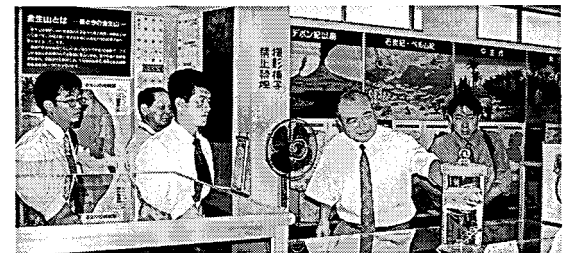
その他コーナー展や子ども歴史教室や古文書教室など普及活動の具体例も報告いただき、どの館も大変参考となる事例を詳細に伺うことができました。

講演後、引き続き関ヶ原合戦大垣博覧会場、郷土館の見学をして、その時代、土地の歴史資料をみることにより、一層内容を深めることができました。



大垣城にて

2日目の見学研修会はタリイピアセンターと金生山化石館を訪問し、ご案内いただきました。郷土の歴史、文化に対する学習の拠点となるような積極的な活動を行っている様子が展示のさまざまな角度から伝わってきて、その重要性が再認識された見学でした。

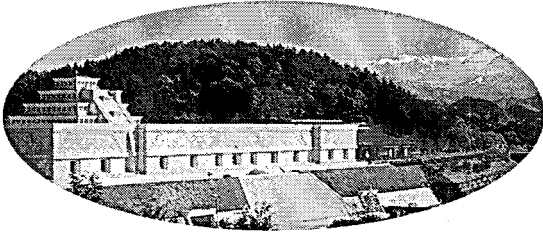


金生山化石館にて

(内藤記念くすり博物館 伊藤恭子)

光記念館

〒506-0051 岐阜県高山市中山町175
TEL 0577-34-6511



光記念館は、岡田光玉師の「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」の理念に基づき、前人未到の新しい総合文明原理を打ち樹て、地上に世界人類の悠久平和を確立せんとする精神を根幹に平成11年4月8日に開館致しました。当館では、これまで収集した博物資料や美術品を広く一般に公開するとともに、地域文化の発展・向上、国際交流の推進を目的としております。

〔B1F：人類史展示室〕

世界各地で発展した7大文明と日本の各地域で発掘された縄文土器・遺物など（約600点収蔵）の展示を行っております。

〔B1F：飛騨展示室〕

日本の飛騨地域で発掘された約4億年前の化石や石器など（約8,000点収蔵）を中心に、地質科学的な面より見た自然史の展示を行っております。展示室内には、化石を基にして精巧に作られた植物ジオラマ、屋外には実物大の恐竜模型を設置することにより、臨場感あふれる展示を行っております。



古生代展示室

〔B2F：美術展示室〕

日本の伝統美を有する横山大観、加山又造、川合玉堂、上村松園、棟方志功、比田井天来、

手島右郷、山崎大抱など近代、現代を代表する作家の日本画、屏風、書など（約400点所蔵）を展示しております。

各展示室では、季節に応じて年3～4回の展示替えを行っております。また、大ホールの一部には、総檜造りの能舞台が設置されております。開館の柿落としては重要無形文化財 山本眞義師による舞囃子「高砂」が披露されました。

〔B2F：企画展示室〕

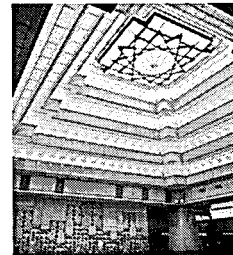
開館以来、「ロダン・ブールデル展」、「北大路魯山人展」、「葛飾北斎・富嶽三十六景展」を開催致しました。現在は「池田満寿夫展」を平成12年12月3日まで開催中。多種多様なテーマの展示を行っております。

今後は、「東海道五十三次展」、「琳派展」、「芹澤銈介展」、「今井俊満展」、「マヤ拓本展」など、開催の予定です。

〔B2F：多目的空間「ピラミッドホール」〕

床が上下（B2FからB3F）に動く可変式になっており、様々な催し物に対応できるように設計されております。

尚、ピラミッドホールでは、毎日、光と音による演出をお楽しみいただいております。



ピラミッドホール

光記念館（博物館・美術館複合型ミュージアム）は、皆様の安らぎの場、憩いの場として、時代のニーズに適應し、広く地域社会に貢献する社会教育施設として博物館活動を展開しております。

【開館時間】 10：00～17：00

（入館は16：00まで）

【休館日】 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始

【入館料】 大人 900円
高・大学生 700円
小・中学生 300円

【交通】 JR高山駅より車で7分
東海北陸自動車道 飛騨清見ICより約15分
（光記念館 館長代理 平塚林司）